

VI-III

死亡の推移-脳血管疾患

# 1

## 脳血管疾患死亡（総数）の推移

岩手県の脳血管疾患による死亡数は、死因の第3位となっている。

最新年では、1,909人が脳血管疾患で死亡しているが、そのうち男性は885人、女性が1,024人で、女性が140人ほど多くなっている。

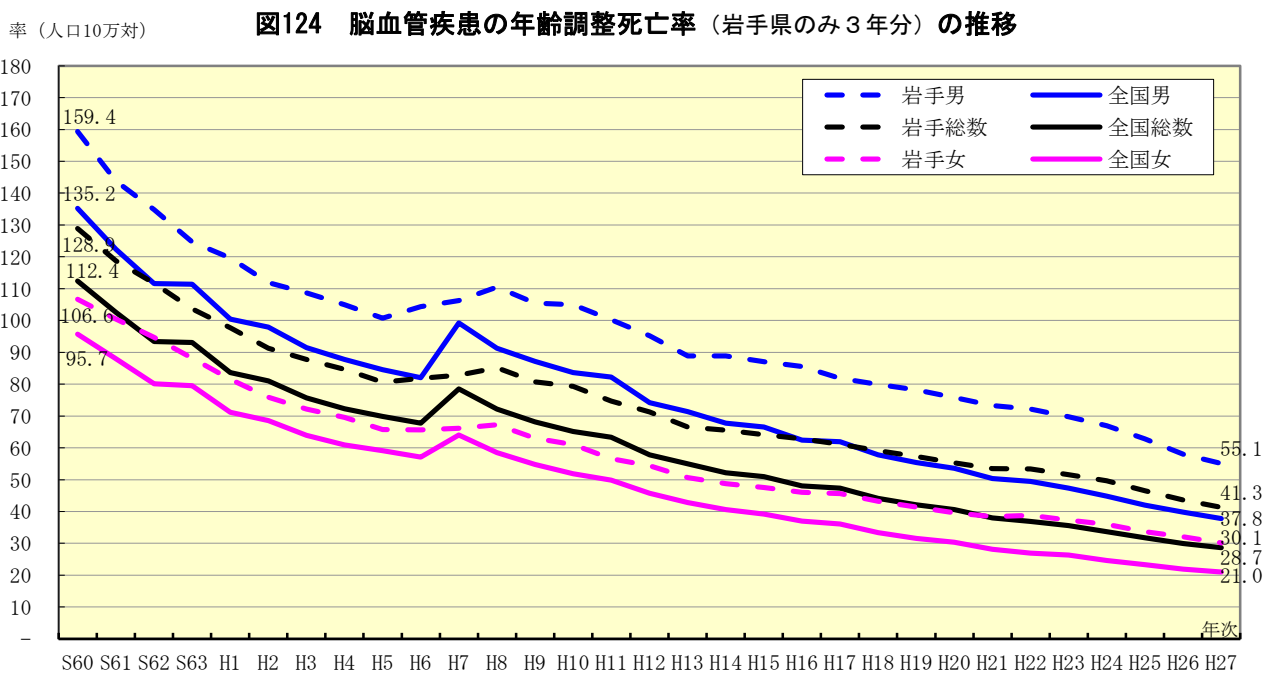
なお、全国では、平成24年から脳血管疾患は死因の第4位であり、第3位に肺炎が上がってきている。

岩手県脳血管疾患死亡数最新値（H28年）1,909人  
 内訳 男性 885人  
 女性 1,024人

昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移を示す（図124）。

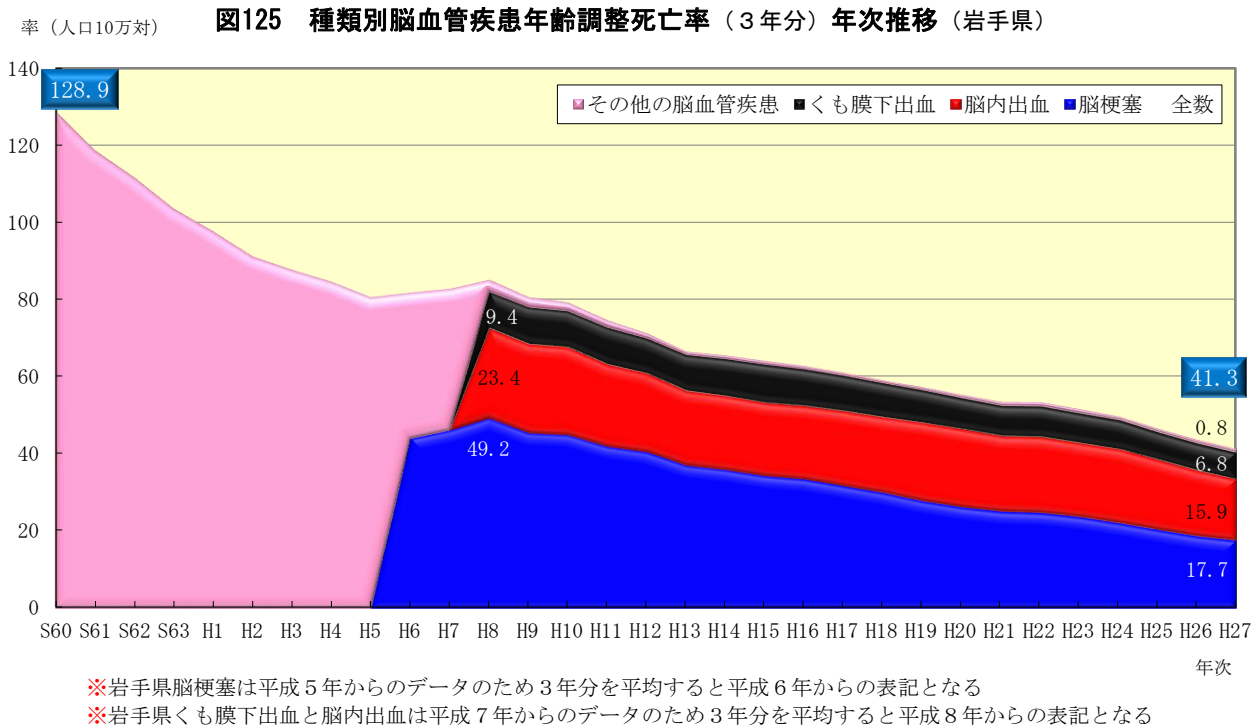
脳血管疾患は、平成7年前後に大きく増加しているのが、これは心疾患診断基準の見直しの影響と思われる。その後も若干の増減はあるものの着実に減少している。

男女別では、最新値で、男性が女性のほぼ倍の値となっており、男女ともに、全国を常に大きく上回って推移している。



※平成7年前後の増加は心疾患診断基準の見直しのためと思われる

脳血管疾患は、脳梗塞、脳内出血及びくも膜下出血に大別することができる。昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県の脳血管疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図125）。



最新年の種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表58）。

総数では、1位は脳梗塞、2位は脳内出血、3位はくも膜下出血で全国と同じ順位となっているが、脳梗塞は3割程度、脳内出血は6割程度、くも膜下出血は4割程度全国より高い状況となっている。

表58 平成27年（岩手県のみ3年分）種類別脳血管疾患年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	その他の脳血管疾患
全国	脳梗塞 (13.1)	脳内出血 (10.0)	くも膜下出血 (4.8)	0.8
岩手	脳梗塞 (17.7)	脳内出血 (15.9)	くも膜下出血 (6.8)	0.8
全国との差	4.6	5.9	2.0	0

次に、脳血管疾患の増減を見るため、岩手県の種類別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表59）。なお、4区分に該当していない部位はほぼ横ばいと捉えることができる。

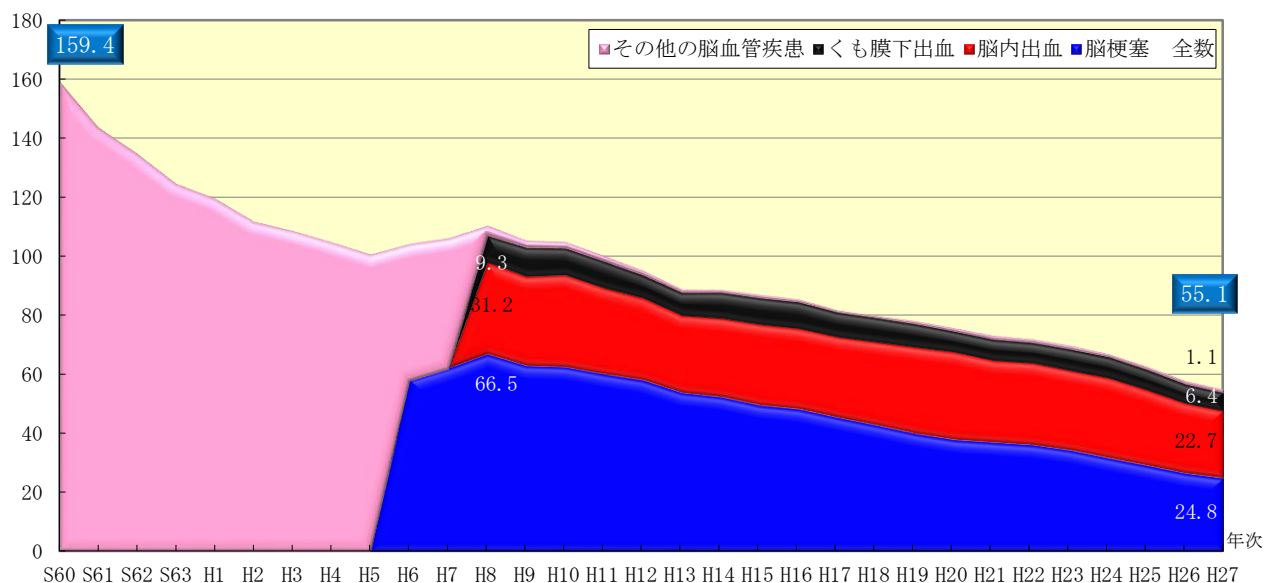
この10年余りで大きく減少しているのは脳内出血及び脳梗塞となっている。

表59 種類別脳血管疾患－平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別脳血管疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	－
若干増加（110%以上 120%未満）	－
若干減少（80%以上 90%未満）	くも膜下出血（80.5%）
大きく減少（80%未満）	脳内出血（73.1%）、脳梗塞（59.0%）

同じく、昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県**男性**の脳血管疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図126）。

率（人口10万対） 図126 種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-男性）



※岩手県脳梗塞は平成5年からのデータのため3年分を平均すると平成6年からの表記となる  
 ※岩手県くも膜下出血と脳内出血は平成7年からのデータのため3年分を平均すると平成8年からの表記となる

最新年の**男性**の種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表60）。

1位は脳梗塞、2位は脳内出血、3位はくも膜下出血で全国と同じ順位となっているが、脳梗塞及びくも膜下出血は4割程度、脳内出血は6割程度全国より高い状況となっている。

表60 男性の平成27年（岩手県のみ3年分）種類別脳血管疾患年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	その他の脳血管疾患
全国	脳梗塞 (18.1)	脳内出血 (14.1)	くも膜下出血 (4.7)	1.0
岩手	脳梗塞 (24.8)	脳内出血 (22.7)	くも膜下出血 (6.4)	1.1
全国との差	6.7	8.6	1.7	0.1

岩手県**男性**の種類別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表61）。

この10年余りでもくも膜下出血及び脳梗塞が大きく減少している。

表61 男性の種類別脳血管疾患—平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する種類別脳血管疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	脳内出血（80.8%）
大きく減少（80%未満）	くも膜下出血（74.7%）、脳梗塞（58.3%）

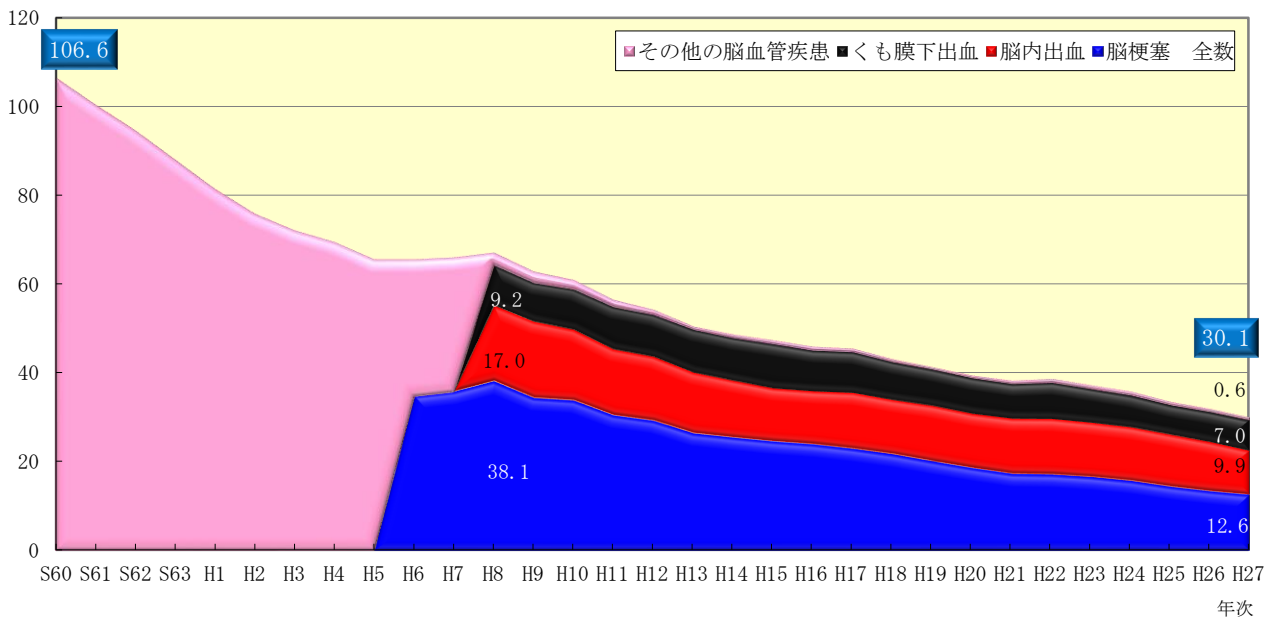
最新年の**女性**の種類別の脳血管疾患の年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（図127）。

また、最新年の女性の種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表62）。

1位は脳梗塞、2位は脳内出血、3位はくも膜下出血であり全国と同じ順位となっているが、脳梗塞は3割程度、脳内出血は6割程度、くも膜下出血は5割程度全国より高い状況となっている。

率（人口10万対）

図127 種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-女性）



※岩手県脳梗塞は平成5年からのデータのため3年分を平均すると平成6年からの表記となる  
 ※岩手県くも膜下出血と脳内出血は平成7年からのデータのため3年分を平均すると平成8年からの表記となる

表62 女性の平成27年（岩手県のみ3年分）種類別脳血管疾患年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	その他の脳血管疾患
全国	脳梗塞 (9.3)	脳内出血 (6.3)	くも膜下出血 (4.8)	0.6
岩手	脳梗塞 (12.6)	脳内出血 (9.9)	くも膜下出血 (7.0)	0.6
全国との差	3.3	3.6	2.2	0

岩手県女性の種類別の平成18年（3年分）の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表63）。

この10年余りで大きく減少しているのが脳梗塞となっている。

表63 女性の種類別脳血管疾患—平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する種類別脳血管疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	脳内出血（81.4%）、くも膜下出血（80.8%）
大きく減少（80%未満）	脳梗塞（58.0%）

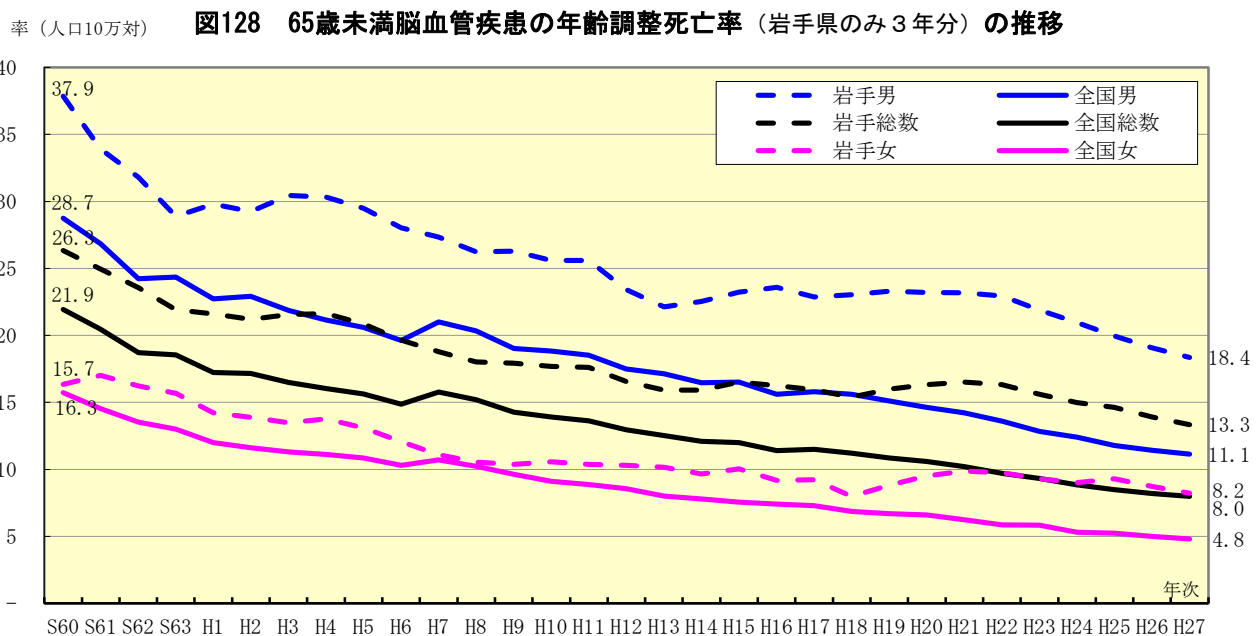
## 2 脳血管疾患死亡（65歳未満）の推移

昭和60年から平成27年までの全国及び岩手県の脳血管疾患の65歳未満の年齢調整死亡率の推移を示す（図128）。

65歳未満の年齢調整死亡率は、全国が着実に減少しているのに対し、岩手県は近年ほぼ横ばいで推移している。

男女別では、最新値で、男性が女性の倍強の値となっている。

全国との比較では、男女ともに常に全国を大きく上回っているが、近年、その差が大きくなりつつある。



※平成7年前後の増加は心疾患診断基準の見直しのためと思われる

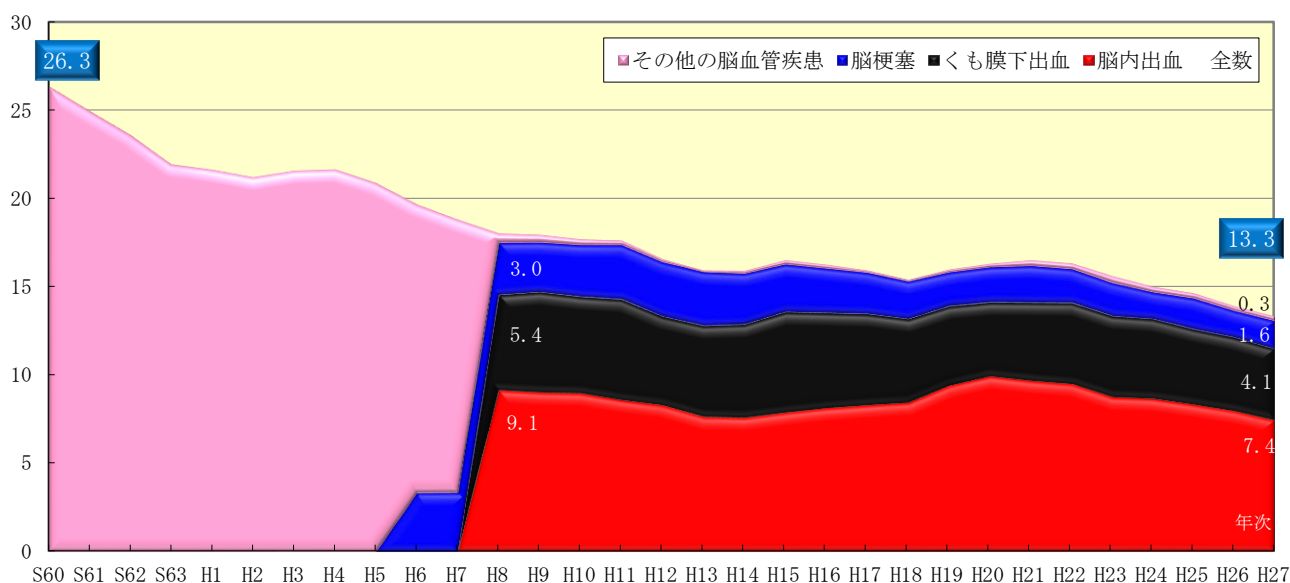
昭和60年（3年分）から最新年（3年分）までの岩手県の65歳未満の脳血管疾患の種類別年齢調整死亡率の推移を示す（図129）。

さらに、最新年の65歳未満の脳血管疾患の種類別年齢調整死亡率（岩手県のみ3年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表64）。

1位は脳内出血、2位がくも膜下出血、3位が脳梗塞であり、全国と同じ順位となっているが、脳血管疾患総数とは順位が異なっている。脳内出血は9割程度、くも膜下出血が5割程度、脳梗塞が6割程度全国より高い状況となっている。

率（人口10万対）

図129 65歳未満種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県）



※岩手県脳梗塞は平成5年からのデータのため3年分を平均すると平成6年からの表記となる  
 ※岩手県くも膜下出血と脳内出血は平成7年からのデータのため3年分を平均すると平成8年からの表記となる

表64 65歳未満の平成27年（岩手県のみ3年分）種類別脳血管疾患年齢調整死亡率高率順位（人口10万対）

高率順	1位	2位	3位	その他の脳血管疾患
全国	脳内出血 (3.9)	くも膜下出血 (2.8)	脳梗塞 (1.0)	0.2
岩手	脳内出血 (7.4)	くも膜下出血 (4.1)	脳梗塞 (1.6)	0.3
全国との差	3.5	1.3	0.6	0.1

岩手県の種類別の平成18年（3年分）の65歳未満の年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年（3年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4区分別に示す（表65）。

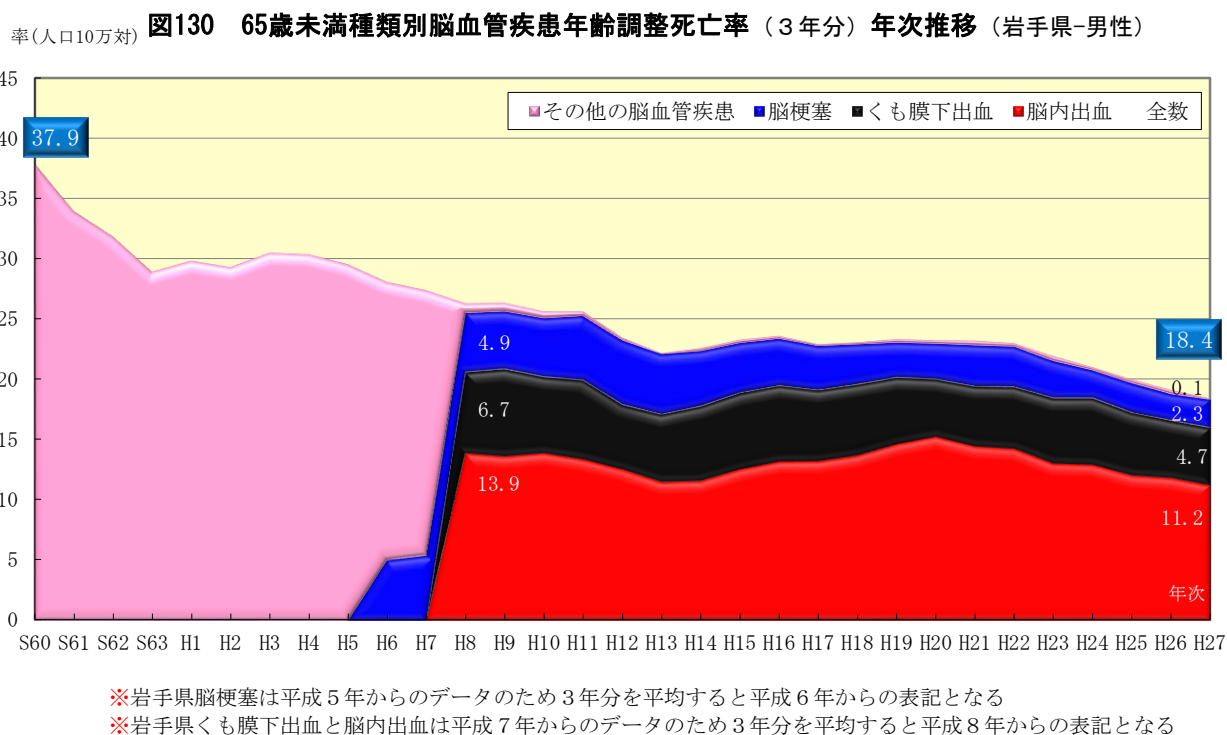
この10年余りで大きく減少しているのは脳梗塞となっている。

表65 65歳未満種類別脳血管疾患—平成18年年齢調整死亡率を100%とした場合の平成27年年齢調整死亡率の割合

区分	該当する種類別脳血管疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	脳内出血（88.1%）、くも膜下出血（85.7%）
大きく減少（80%未満）	脳梗塞（74.4%）



同じく、昭和 60 年（3 年分）から最新年（3 年分）までの岩手県の 65 歳未満**男性**の脳血管疾患年齢調整死亡率の推移を示す（図 130）。



さらに、最新年の 65 歳未満**男性**の種別脳血管疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ 3 年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表 66）。

1 位は脳内出血、2 位がくも膜下出血、3 位が脳梗塞で全国と同じ順位であり、脳内出血は 9 割程度、くも膜下出血及び脳梗塞は 5 割程度全国より高い状況となっている。

表 66 65 歳未満男性の平成 27 年（岩手県のみ 3 年分の平均）種別脳血管疾患年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	その他の脳血管疾患
全国	脳内出血 (6.0)	くも膜下出血 (3.2)	脳梗塞 (1.6)	0.3
岩手	脳内出血 (11.2)	くも膜下出血 (4.7)	脳梗塞 (2.3)	0.1
全国との差	5.2	1.5	0.7	-0.2

岩手県の種別別の平成 18 年（3 年分）の 65 歳未満**男性**の年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年（3 年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4 区分別に示す（表 67）。

この 10 年余りで大きく減少しているのは脳梗塞となっている。

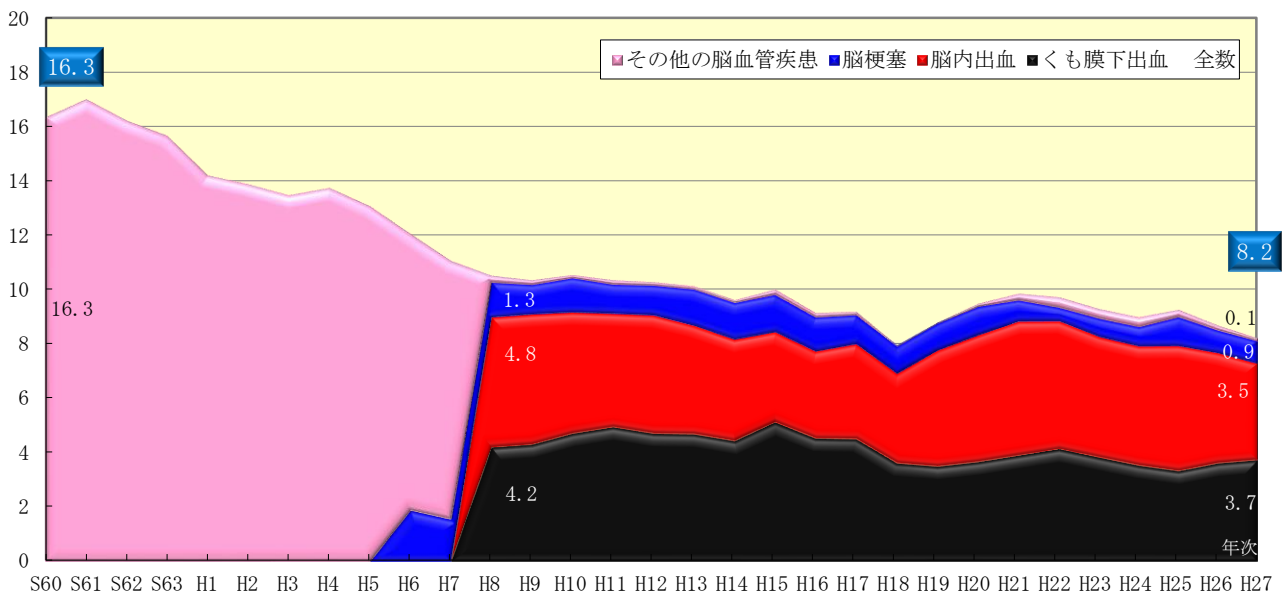
表 67 65 歳未満男性の種類別脳血管疾患—平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別脳血管疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	脳内出血（82.0%）、くも膜下出血（80.7%）
大きく減少（80%未満）	脳梗塞（70.3%）

同じく、昭和 60 年（3 年分）から最新年（3 年分）までの岩手県の 65 歳未満**女性**の脳血管疾患年齢調整死亡率の推移を示す（図 131）。

率(人口10万対)

図131 65歳未満種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（3年分）年次推移（岩手県-女性）



※岩手県脳梗塞は平成 5 年からのデータのため 3 年分を平均すると平成 6 年からの表記となる

※岩手県くも膜下出血と脳内出血は平成 7 年からのデータのため 3 年分を平均すると平成 8 年からの表記となる

さらに、最新年の 65 歳未満**女性**の種類別脳血管疾患年齢調整死亡率（岩手県のみ 3 年分）について、高率順に全国と岩手県との比較を示す（表 68）。

全国と同じ順位となっているが、女性は、1 位がくも膜下出血、2 位が脳内出血、3 位が脳梗塞となっている。くも膜下出血は 6 割程度、脳内出血及び脳梗塞は 9 割程度全国より高い状況となっている。

表 68 65 歳未満女性の平成 27 年（岩手県のみ 3 年分）種類別脳血管疾患年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	その他の脳血管疾患
全国	くも膜下出血 (2.4)	脳内出血 (1.8)	脳梗塞 (0.5)	0.1
岩手	くも膜下出血 (3.7)	脳内出血 (3.5)	脳梗塞 (0.9)	0.1
全国との差	1.3	1.7	0.4	0

岩手県の種類別の平成 18 年（3 年分）の 65 歳未満**女性**の年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年（3 年分）の年齢調整死亡率の割合を算出し、4 区分別に示す（表 69）。

表 69 65 歳未満女性の種類別脳血管疾患—平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 27 年年齢調整死亡率の割合

区 分	該当する種類別脳血管疾患（割合）
大きく増加（120%以上）	—
若干増加（110%以上 120%未満）	—
若干減少（80%以上 90%未満）	脳梗塞（83.1%）
大きく減少（80%未満）	—

### 3 保健所別脳血管疾患死亡等の推移

平成 8 年から最新年までの約 20 年の保健所別の脳血管疾患の死亡数を表 70 に示す。

年次により多少の増減はあるものの、県央保健所管内は増加、中部保健所管内及び久慈保健所管内は横ばいで、それ以外の保健所管内は減少となっている。

表 70 保健所別年次別脳血管疾患死亡数(単位：人)

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8 年との差	H8 を 100 とした際の H28 の割合
県央	559	601	726	646	574	616	609	605	566	7	101.3
中部	373	406	411	430	404	405	389	344	355	-18	95.2
奥州	253	251	247	255	253	233	222	218	225	-28	88.9
一関	253	250	265	289	264	248	270	236	218	-35	86.2
大船渡	131	128	130	169	100	91	102	88	91	-40	69.5
釜石	116	111	109	134	93	100	102	88	93	-23	80.2
宮古	211	158	178	203	229	187	159	143	142	-69	67.3
久慈	121	88	110	113	109	96	102	106	118	-3	97.5
二戸	136	127	123	121	118	100	123	99	101	-35	74.3
岩手県	2,153	2,120	2,299	2,360	2,144	2,076	2,078	1,927	1,909	-244	88.7

次に、平成8年から最新年までの約20年の保健所別年齢調整死亡率を表71に示す。  
年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で減少している。

表71 保健所別年次別脳血管疾患年齢調整死亡率(単年：人口10万対)

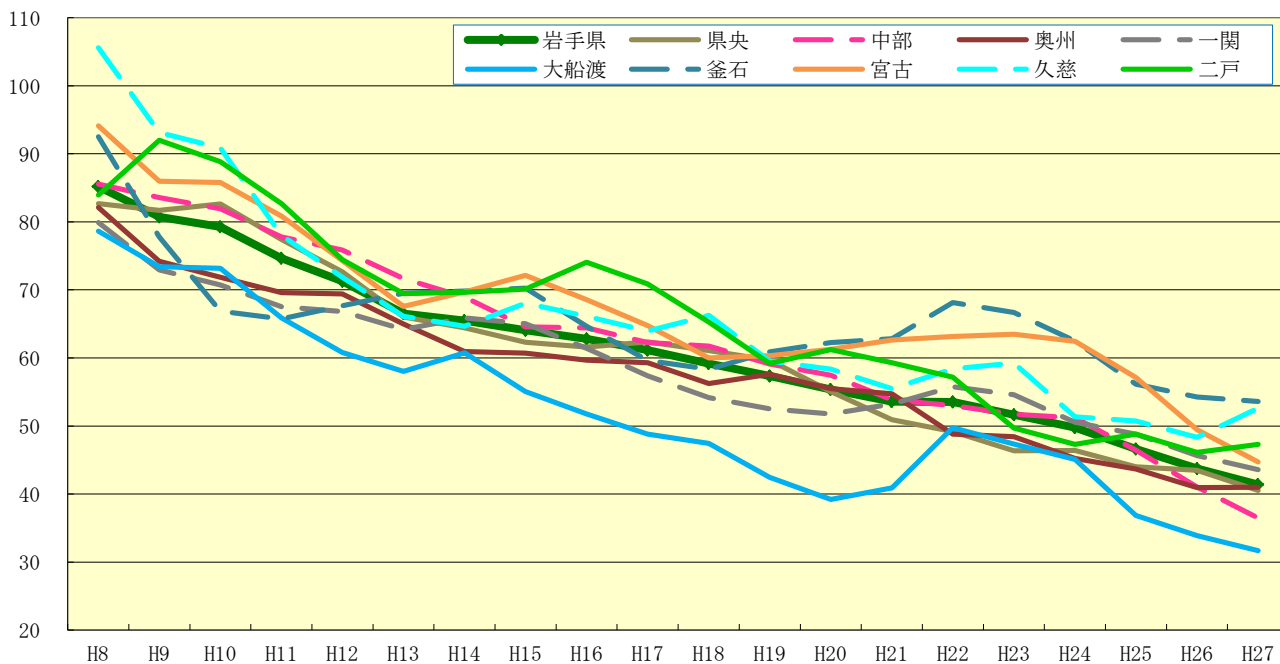
	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8年との差	H8を100とした際のH28の割合
県央	80.1	67.0	65.7	50.9	43.1	45.5	43.6	41.3	36.8	-43.3	46.0
中部	84.7	74.2	57.8	56.9	49.1	47.7	42.7	32.9	34.0	-50.7	40.1
奥州	82.9	66.3	53.5	44.6	46.8	44.4	39.7	38.8	44.5	-38.4	53.7
一関	78.1	63.3	57.8	56.2	52.3	43.0	51.1	43.0	36.7	-41.4	47.0
大船渡	71.4	57.6	53.8	63.4	36.7	35.4	38.7	27.7	28.0	-43.4	39.2
釜石	92.7	66.4	59.8	77.6	58.2	51.5	58.8	52.5	49.5	-43.2	53.4
宮古	92.8	64.4	62.1	61.9	65.1	60.7	46.0	41.6	46.6	-46.2	50.2
久慈	95.9	60.0	57.2	53.7	56.3	44.3	51.5	49.6	57.8	-38.1	60.2
二戸	87.5	71.7	65.4	50.5	48.7	42.7	55.4	40.1	45.6	-42.0	52.0
岩手県	83.2	66.5	60.1	55.0	48.4	46.2	45.4	39.6	39.2	-44.0	47.1

5年刻み

平成8年(3年分)から平成27年(3年分)までの保健所別の脳血管疾患総数(図132)及び65歳未満(図133)の年齢調整死亡率の推移を示す。

率(人口10万対)

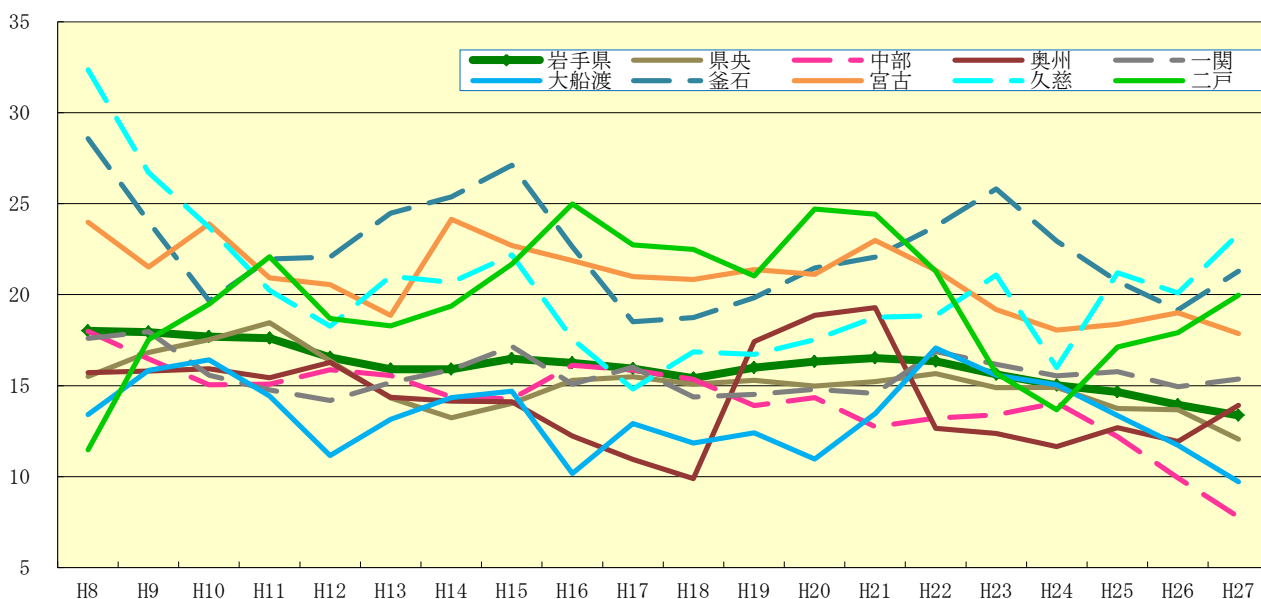
図132 保健所別の脳血管疾患の年齢調整死亡率(3年分)の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから20からの設定とした

率(人口10万対)

図133 保健所別の65歳未満脳血管疾患の年齢調整死亡率(3年分)の推移



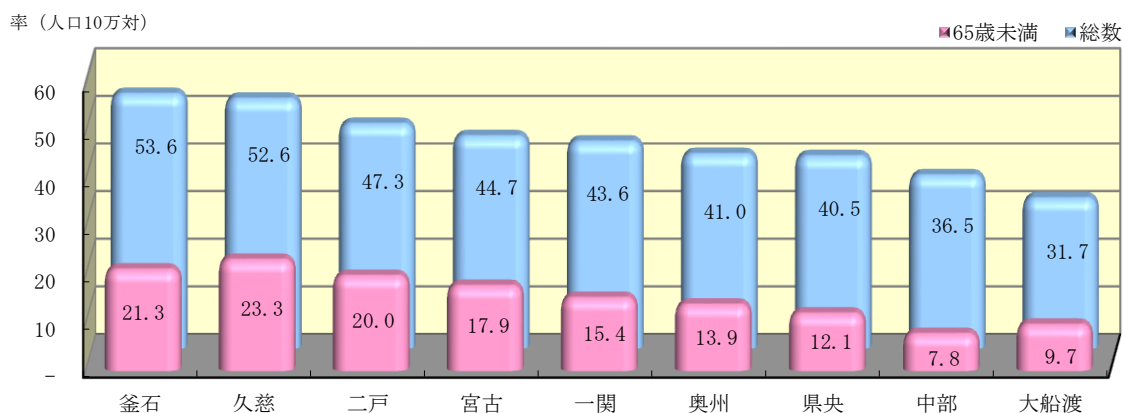
※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから5からの設定とした

さらに、最新年(3年分)の脳血管疾患総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す(図134)。

総数で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い大船渡保健所管内とは21.9の差となっている。

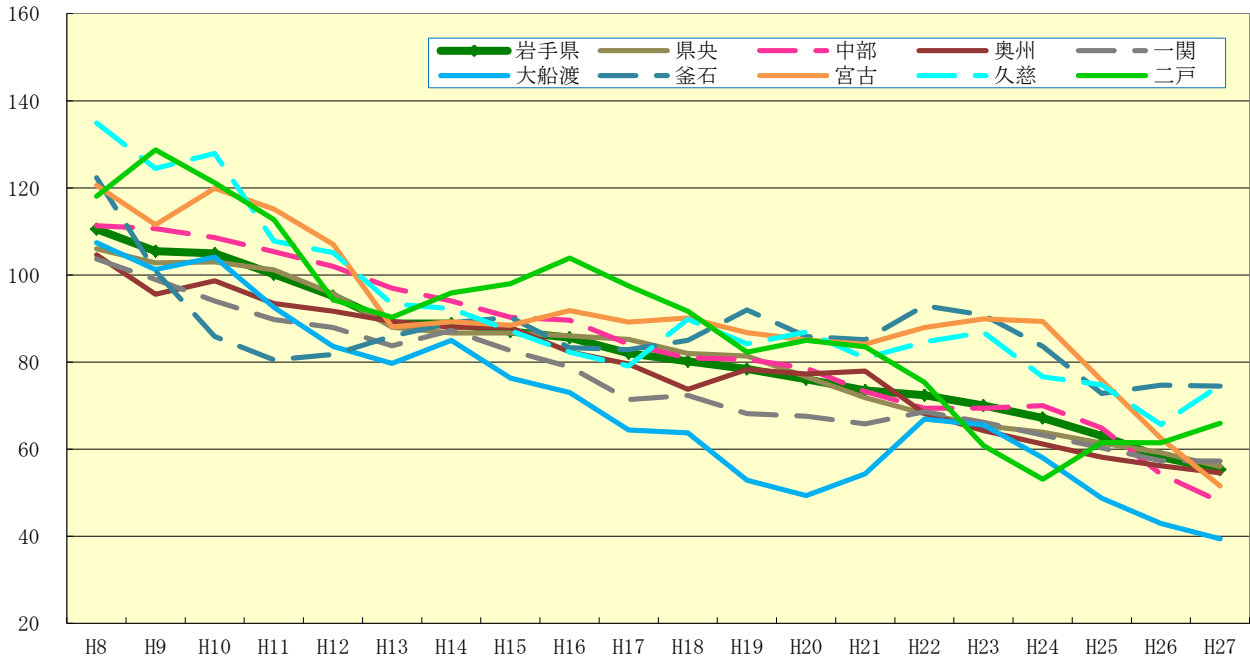
65歳未満では久慈保健所管内が最も高く、最も低い中部保健所管内とは15.5の差となっている。

図134 保健所別脳血管疾患年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率(3年分)



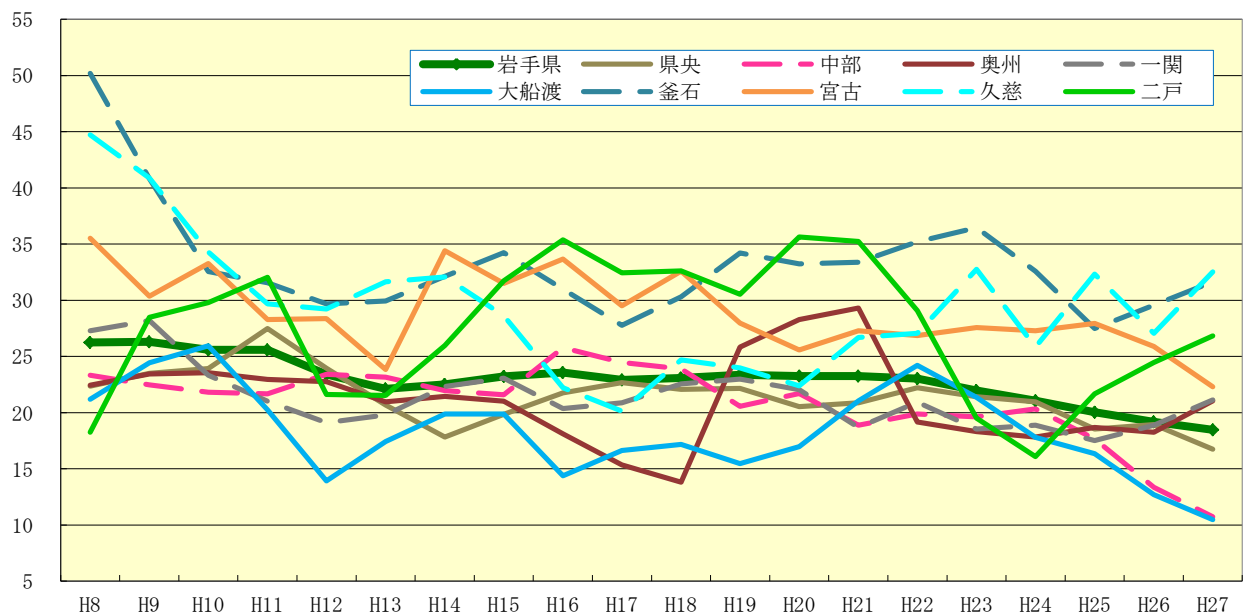
平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**男性**の脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移（図135）及び65歳未満の年齢調整死亡率の推移（図136）を示す。

率(人口10万対) **図135 保健所別の脳血管疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）**



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから20からの設定とした

率(人口10万対) **図136 保健所別の65歳未満脳血管疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（男性）**



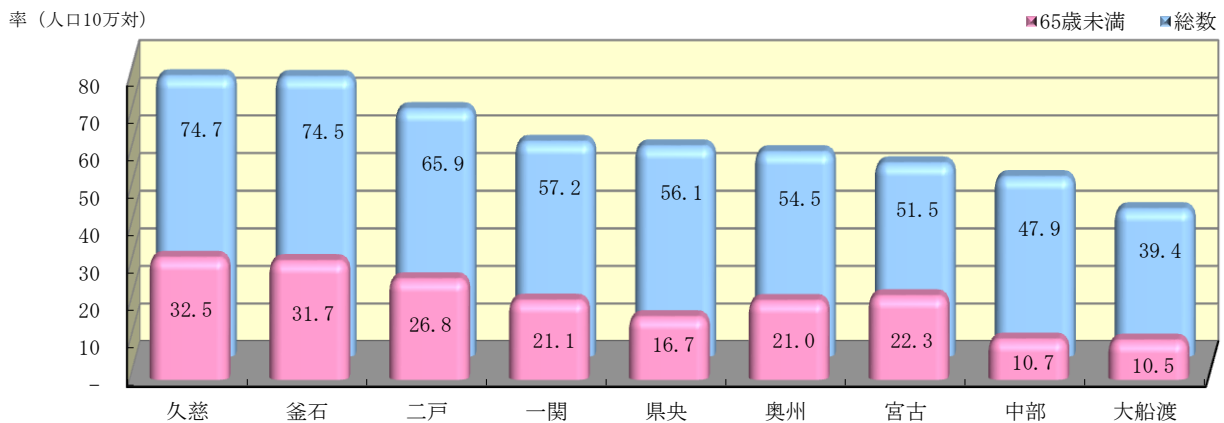
※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから5からの設定とした

さらに、最新年（3年分）の**男性**の脳血管疾患総数及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図137）。

**男性**の総数で最も高いのは久慈保健所管内であり、最も低い大船渡保健所管内とは35.3の大きな差となっている。

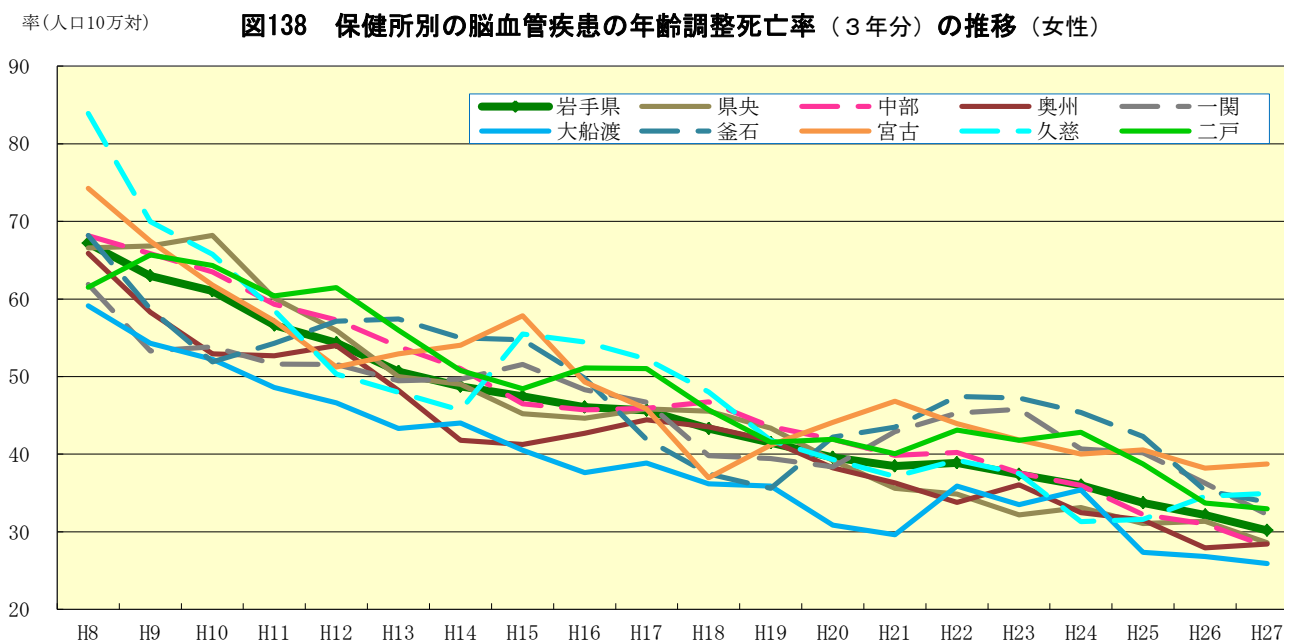
65歳未満でも久慈保健所管内が最も高く、最も低い大船渡保健所管内とは22.1の差となっている。

図137 保健所別脳血管疾患年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-3年分）



同じく、平成8年（3年分）から平成27年（3年分）までの保健所別**女性**の脳血管疾患総数（図138）及び65歳未満（図139）の年齢調整死亡率を示す。

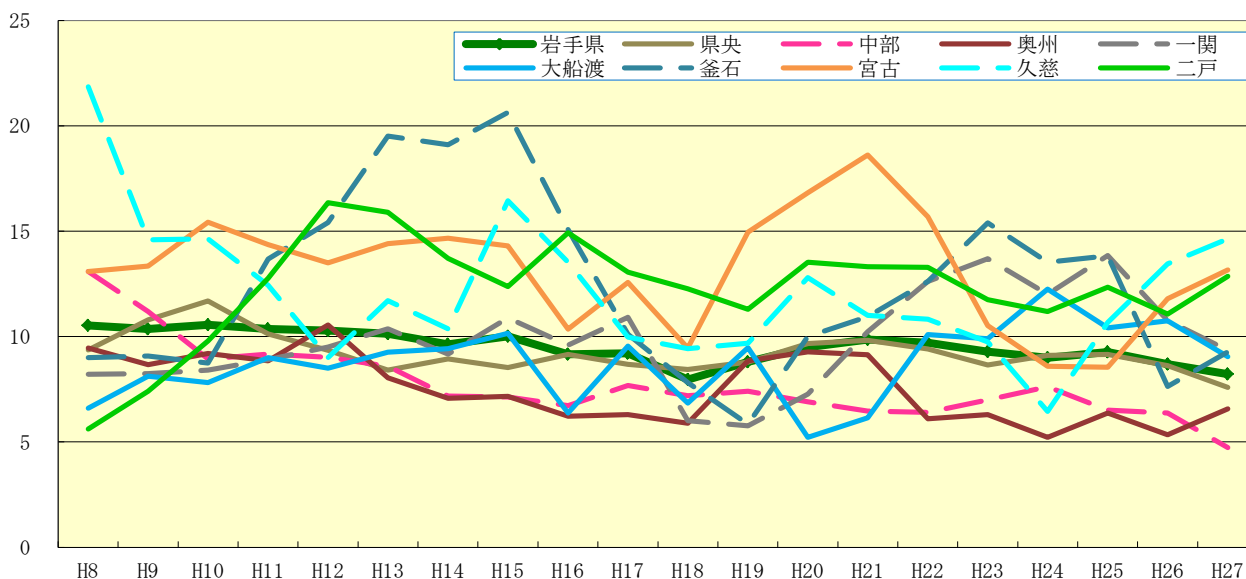
図138 保健所別の脳血管疾患の年齢調整死亡率（3年分）の推移（女性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから20からの設定とした

率(人口10万対)

図139 保健所別の65歳未満脳血管疾患の年齢調整死亡率(3年分)の推移(女性)



さらに、最新年(3年分)の**女性**の年齢調整死亡率及び65歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す(図140)。

**女性**の総数で最も高いのは宮古保健所管内であり、最も低い大船渡保健所管内とは12.8の差となっている。

65歳未満は久慈保健所管内が最も高く、最も低い中部保健所管内とは9.9の差となっている。

図140 保健所別脳血管疾患年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率(女性-3年分)

率(人口10万対)

